

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4691300018
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム はまんだ
訪問調査日	平成22年3月17日
評価確定日	平成22年4月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4691300018		
法人名	社会福祉法人 百合砂		
事業所名	グループホーム はまんだ		
所在地 (電話番号)	西之表市西之表6602-1		(電話) 0997-23-3992
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成22年3月17日		

【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海辺の通りから少し入った場所に、地域の住宅と違和感なく建てられたホームである。開設から間もなく3年を迎え、同一法人には特別養護老人ホームや通所介護事業所、もう一つのグループホームなどがあり、研修をはじめとする連携体制が整備されている。「出来ることは我が我がで」や「合い言葉は長生き」などのユニークな基本理念のもと、利用者職員はカルタ取りや楽しい会話で和気あいあいと暮らしている。退職した職員との交流も続くなど、ひとつの家族としての温かみを感じさせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有について課題となったが、新たに看取り指針マニュアルおよび同意書を作成している。重度化した場合は、本人およびご家族、かかりつけ医をはじめとする関係者の話を聞き、全員で方針を共有している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者および職員は評価の意義を理解しており、ミーティング等の時間を利用して読み合わせを行って、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回のペースで会議を開催してきたが、さらなるサービス向上のために、今後は2ヶ月毎に開催する方向で決定している。会議では、活動報告や意見交換が行われ、様々な情報提供や具体的な提案をいただき、実際の運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご意見箱の設置の他、第三者委員会も組織されている。ご家族が参加される行事が年に数回あり、意見や要望を出しやすいように働きかけている。口腔ケアに関するご家族からのご意見に対し、早速検討を行い対策を実施したものもあり、その成果を報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	鉄砲祭や納涼夏祭りなどに積極的に参加しているほか、大正琴同好会や踊りの会の方々が来訪され、楽しい時間を過ごしている。また、近くの幼稚園児が月に1回程度立ち寄り、卒園式に招待を受けて利用者が出席するなど、地域との交流がますます深まっている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中に「地域と共に地域の中で共に生きる」という項目を入れており、地域密着型サービスを意識したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「出来ることは我が我がで……」の理念に基づいて、見守りながら手を出し過ぎないように心掛け、自立支援に努めるなど、日常的に理念の実践に向けて取り組んでいる。		ホームの随所に理念を掲示すると共に、職員は携帯して共有に努めているが、朝礼や会議で唱和するなどして、さらなる浸透に努めていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鉄砲祭や納涼夏祭りなどに積極的に参加しているほか、大正琴同好会や踊りの会の方々が来訪され、楽しい時間を過ごしている。また、近くの幼稚園児が月に1回程度立ち寄りたり、卒園式に招待を受けて利用者が出席するなど、地域との交流がますます深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は評価の意義を理解しており、ミーティング等の時間を利用して読み合わせを行って、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回のペースで会議を開催してきたが、さらなるサービス向上のために、今後は2ヶ月毎に開催する方向で決定している。会議では、活動報告や意見交換が行われ、様々な情報提供や具体的な提案をいただき、実際の運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者および地域包括支援センター職員と緊密に連携しており、共にサービスの質向上に努めている。昨年度からは、市の認知症地域支援体制構築モデル事業に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の機関紙「はまゆう」に、ホームの様子や利用者の暮らしぶりを掲載すると共に、ご家族への一言欄を設けて個別に対応している。健康状態については、状況に応じて電話で連絡するようにしており、金銭管理については、出納記録を毎月送付して確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置の他、第三者委員会も組織されている。ご家族が参加される行事が年に数回あり、意見や要望を出しやすいように働きかけている。口腔ケアに関するご家族からのご意見に対し、早速検討を行い対策を実施したのもあり、その成果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動があったが、新人が馴染むまでは先輩職員が同行して対応するなど、利用者のダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行われる新人・初級者向けの研修会、および定期的な勉強会に参加している。勉強会は、ひと月に2回、同じ内容のものが実施されるため、必ず全職員が受講できる体制となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のホームや隣町のホームとの交流を行っているが、地域の同業者とのネットワーク作りは今後の課題である。		行政の理解と協力を得ながら同業者とのネットワーク作りを積極的に進め、合同の勉強会や相互訪問等を行うことで、地域全体のサービスの質がさらに向上することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には、可能な限り本人やご家族に見学してもらうように働きかけている。入居当初、本人の不安感が強い場合は、ご家族や知人の面会頻度を多くしていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、昔の唄や畑仕事等を教えてもらいながら、互いに支え合う関係を築いている。自立支援へ向けて、職員が手を出し過ぎず、本人のペースを尊重するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からの情報収集に加えて、日頃の会話についても、本人の言葉をそのまま記録して希望や意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族、その他関係者の意見を取り入れながら介護計画を作成している。また、ミーティングにおいて、協力病院からの情報および職員の意見やアイデアを収集して計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン評価表を使い、日々のチェックおよび毎月の評価を行っている。その上で期間に応じた見直しを行い、さらに状況変化の際は、かかりつけ医の意見を基に、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受審同行や、外出および外泊、ご家族の宿泊等、本人やご家族の状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望されるかかりつけ医となっているが、入居前から協力医療機関を利用されていた方が多く、馴染みの関係が出来ている。受審同行や情報提供など、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針マニュアルおよび同意書を作成している。重度化した場合は、本人およびご家族、かかりつけ医をはじめとする関係者の話を聞き、全員で方針を共有している。終末期に対応した介護計画を作成した事例もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることの無いような、言葉かけや対応をするように心掛けている。呼称については、ご家族に確認して、「〇〇先生」と呼びかけるなど、生活歴を考慮した対応を行っている。記録等の個人情報の取り扱いについては、カーテンで目に触れないようにするなど、適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は皆で一緒に過ごしているが、そのほかの時間については、部屋で過ごしたり出かけたりと、健康状態や天候を考慮しながら日課にとらわれない生活を送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや盛りつけなど、それぞれの方の能力に応じて手伝っていただいている。ご家族から野菜や果物をいただくこともあり、メニューについては、その日の朝、担当者が食材をヒントに利用者の希望を聞いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴状況を記録しており、2日に1回を目安にしているが、毎日希望される方には柔軟に対応している。入浴を拒否される方に対しては、体重測定を理由にお誘いするなど、声かけの方法やタイミングを工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握することで、野菜作りやカラオケ、裁縫や家事等、一人ひとりの能力や経験に応じて役割を持ち、張り合いのある日々を送れるように支援している。正月に始めたカルタ取りは人気があり、週に数回は皆で楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の購入に毎日スーパー等に出かけているほか、天候や利用者の希望により、ドライブや散歩、無人市場や畑などに出向いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、外に出られそうな利用者には職員が寄り添い、一緒に出かけるようにしている。地域の商店の皆さんにも見守りや連絡の協力をいただきながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いの下で、夜間想定を含めた防災避難訓練を実施している。運営推進会議の場などでは、地域の皆さんからも協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護観察記録に食事摂取量や水分摂取量を記録しており、必要量が確保できるように支援している。栄養バランスについては献立表を参考にし、分量についてはそれぞれの健康状態を考慮して支援している。		管理栄養士などの専門家による助言や指導を継続的に受けることで、さらなるサービスの質の維持・向上に取り組んでいただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールにはソファを設置しており、ゆったりとくつろげる空間となっている。雛飾りなどの季節のしつらえや生け花で季節を感じながら、居心地良く過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやダンス、鏡台や位牌、ご家族の写真等、馴染みのあるものが持ち込まれており、安心して暮らすことができるように工夫している。		